

式次第「病人訪問時の祈り」
(試作版)

序 文

「わたしが病気のとき、あなたは見舞ってくれた」

(マタイによる福音書 25 章 36 節参照)

「病人や老人を訪問してともに祈り、慰め、励まし、助けること」(儀式書『病者の塗油』第 40 項参照)はすべてのキリスト者の務めです。しかし同時に、教会は通常、聖体奉仕をするには、ふさわしい養成と教区司教の許可が必要だとも教えています。そこで大阪教区典礼委員会では、許可や任命がなくても、家族や友人が病人とともに祈ることができるように、一般の集会祭儀の形式にもとづき、聖体拝領をともなわない式次第を作成しました。この式次第は、病人とともに祈る一つの例ですので、病人の状態やさまざまな必要に応じて変更することができます。

教会は、病人がひとりにいるときでも、家族や友人、世話をする人々とともにいるときでも、病人が祈りによって励まされることを望んでいます。その祈りはまず何よりも聖書のことばから導かれるのがふさわしいでしょう。病人の状態がゆるすなら、病人自身や家族が、祈願や朗読箇所を選ぶことで、この式の準備をすることもできます。

奉仕者は聖書朗読の前に短い導入のことばをのべるか、しばらく沈黙をとるなどして、病人や同席する者に聖書を聞く準備ができるようにしたいでしょう。

ここに挙げた祈りのことばは、キリストのことばと働き、生涯における人間的な苦しみの神秘を伝えるものです。病人は、祈りにふれて主日の朗読箇所を聞くならば、共同体とのつながりを味わうことができるでしょう。また、祈りのことばとして、詩編や伝統的な連禱などを使用することもできます。病人はこのような祈りによって励まされることでしょう。

奉仕者は、病人がキリストとの一致によって自分の苦しみをささげ、教会と世界のために祈ることができると病人を励ますことができます。たとえば世界の平和のために、教会が聖霊のいのちに満たされるために、教皇や司教のために、災害によって苦しむ人々のためになど、固有の意向で祈りを捧げてほしいと病人に頼んではいかがでしょう。

式次第「病人訪問時の祈り」（試作版）

あいさつ

奉仕者 父と子と聖霊のみ名によって。

一 同 アーメン。

奉仕者 主イエス・キリストの恵みと喜びがわたしたちを力づけてくださいますように。

一 同 アーメン。

聖書朗読

奉仕者あるいは列席する人が、神のことはを朗読する。ほかに適当だと思われる箇所があれば、それを朗読することもできる。

主日の福音

または

使徒たちの宣教 3章1～10節

イエスの御名と教会の力に救いがある。病からの解放においてもそうである

ペトロとヨハネが、午後三時の祈りの時に神殿に上って行った。すると、生まれながら足の不自由な男が運ばれて来た。神殿の境内に入る人に施しを乞うため、毎日「美しい門」といつ神殿の門のそばに置いてもらっていたのである。彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。その男が、何かもらえると

思つて二人を見つめてみると、ペトロは言った。「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によつて立ち上がり、歩きなさい。」そして、右手を取つて彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしかりして、躍り上がつて立ち、歩きだした。そして、歩き回つたり躍つたりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入つて行つた。民衆は皆、彼が歩き回り、神を賛美しているのを見た。彼らは、それが神殿の「美しい門」のそばに座つて施しを乞うていた者だと気づき、その身に起こつたことに我を忘れるほど驚いた。

または

マタイによる福音書 8章14〜17節

神の民の苦しみをやわらげる「神の苦しみの僕」の預言的な姿をとられたイエスは、それを成就される

イエスは、ペトロの家に行き、そのしゅうとめが熱を出して寝込んでいるのを御覧になつた。イエスがその手に触れられると、熱は去り、しゅうとめは起き上がつてイエスをもてなした。夕方になると、人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れて来た。イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆いやされた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであつた。「彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担つた。」

詩編による祈り

神のことばの朗読後、しばらく沈黙する。その後、病人の状態がゆるせば、次の詩編を唱える。ほかに適当な内容の詩編があれば、それを用いることもできる。

神よ、わたしの叫びに耳を傾け、わたしの祈りを聞いてください
交 神よ、わたしが悩み苦しむ時、わたしに早くこたえてください

神よ、わたしの叫びに耳を傾け、

わたしの祈りを聞いてください

わたしが悩み苦しむ時、顔を隠さず耳を傾け、
助けを求めるわたしに早くこたえてください

わたしは荒れ野の鳥、

廃墟のぶくろうのようになつた。

屋根の上の孤独な鳥のように

わたしは眠らずに嘆く。

しかし、神よ、あなたはとこしえに王座に着き、

その名は代々にたたえられる。

今こそ、シオンをあわれむ時、定めの時、

立ち上がり、シオンを顧みてください

あなたはシオンを建て直し、

栄光のうちに姿を現される。

見捨てられた人を顧み

その祈りをうとんじられない

あなたは変わるごとなく、
その年は尽きるごとがない
わたしたちの子はすまいを定め、
子孫はあなたの前にいづまでもとどまる。

交 神よ、わたしが悩み苦しむ時、わたしに早くこたえてください
または

詩編 27

神はわたしの光、わたしの救い。わたしは誰も恐れない

交 神はわたしの光、わたしの救い、わたしはだれも恐れない

神はわたしの光、わたしの救い

わたしはだれも恐れない

神はわたしの光、わたしの救い

わたしはだれをばははかろう。

わたしは神に「いのちを願ひ求めてゐる。

生涯、神の家をすまひとし、

あかきことどもにほむめ、

神の美しさを仰ぎ見るいよせ。

神よ、わたしの声を聞き、

わたしをあわれみ、こたえてください。

わたしの心はささやく、「神の顔を尋ね求めよ。」

神よ、あなたの顔を わたしは慕い求める。

あなたの顔を わたしに隠さず、

怒りでもべを退けないでください。

わたしを遠ざけず、見捨てないでください。

あなたはわたしの助け、わたしを救ってください。さる神。

神を待ち望め、

強く、たくましく、神を待ち望め。

交 神はわたしの光、わたしの救い。わたしはだれも恐れな

奉仕者は、病人やその世話をする人の必要に合わせて、朗読した聖書の箇所に基づいて励ましのことをのべることもできる。

主の祈り

奉仕者はたとえば次のようなことばで「主の祈り」に招く。

奉仕者 ごいつしよに、主イエス・キリストが教えてくださった祈りを唱えましょう。
一同 天におられる……

奉仕者は次の祈願の一つを唱える。

奉仕者 父よ、

御子はわたしたちの苦しみを受け入れて、

人間の病に耐え忍ぶ価値があることを教えてくださいました。

病に伏すわたしたちの兄弟／姉妹のために ささげる祈りを聞き入れてください。

痛み、患い、病に苦しむすべての人が、

あなたをあかしする者となるように選ばれたことを悟り、

世の救いとなる御子の受難によって キリストに結ばれますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

奉仕者 全能永遠の神よ、

あなたを信じるすべての人は、

尽きることのない健康をあなたに見出します。

病に伏す兄弟／姉妹に あなたの慈しみの手をさしのべ、助けてください。

健康を回復させ、

再びあなたの教会で、喜びに満ちた感謝をささげることが出来ますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

奉仕者 全能永遠の神よ、

あなたのゆるしは わたしたちの守り。

どうかわたしたちに心の平安をお与えください。

あなたからいただく慈しみを喜び祝い、

その恵みをいつもあなたの栄光と、

すべての人のために用いることができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

祝福

奉仕者は次のように病人の上に祝福を願うことができる。

奉仕者 主なる神よ、

すべての誉れと栄光はあなたのもの。

わたしたちはあなたの招きにこたえて

愛をもって仕えます。

を祝福してください。

従順によって苦しみを受けられた御子に結ばれて、

今はこの病を担うことができますように。

健康を回復させて、

あなたの栄光へと導いてください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

高齢者のために次の祈りを用いることもできる。

奉仕者 主なる神よ、

すべての誉れと栄光はあなたのもの。

わたしたちはあなたの招きにこたえて

愛をもって仕えます。

あなたに仕えて年齢を重ねたすべての人を祝福し、

がこれから御子イエスに従うことができますよう、

力と勇気をお与えください。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

奉仕者が信徒の場合

奉仕者は自分自身に十字架のしるしをしながら、次のように言う。

奉仕者 主がわたしたちを祝福し、すべての悪から守り、

永遠のいのちに導いてくださいますように。

一同 アーメン。

司祭、または助祭の場合

司祭は病人に按手して言う。

司祭

父である神があなたを祝福し、ひとり子イエス・キリストがあなたをいやし、
聖霊があなたを照らしてくださいように。

答

アーメン。

続いて一同を祝福する。

司祭

全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

2004年2月11日 世界病者の日にあたり 大阪教区典礼委員会

あ と が き

この式次第「病人訪問時の祈り」は、カトリック儀式書『THE RITES OF THE CATHOLIC CHURCH Vol. 』(The Liturgical Press, 1990)所載の「PASTORAL CARE OF THE SICK ; VISITS TO THE SICK」を翻訳し加筆した試作版です。

大阪教区典礼委員会は、皆様のご意見や改善案を加味して、よりよいものを作成する予定であります。そのため、大阪教区池長大司教様から、2004年12月までという期限付きで発行認可を受けました。ご意見や改善案の締切は、2004年3月20日(土)です。

ご意見送付先(お手紙・FAX・メールでお願い致します)

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区 大阪教区典礼委員会

F A X 06-6946-1345

e-mail liturgy.osaka@catholic.ne.jp

式次第「病人訪問時の祈り」(試作版)

2004年2月11日発行

カトリック大阪大司教 仮 認 可

編集 カトリック大阪教区典礼委員会